

奪われた日常

石垣市立八島小学校六年 上原 ゆの

「ゆの、この記事読んでみて。」

学校から帰った私に、お母さんが言いました。それは、ウクライナの戦争についての記事でした。私は、その記事を読んだとき、世界では、こんなにこんなことが起こっているのかと衝撃を受けました。その中でも一番ショックを受けたことは、ロシア軍がウクライナの民間人を地下に連れて行き、その人達の耳を切り落としたり、歯をぬいたりして、死ぬまで放置したというニュースです。また、頭や足、背中を打たれて亡くなった人もたくさんいるという話も聞いています。さらに、遺体を動かそうとしたら爆発するしかけをしているというニュースを聞いたとき、戦争の恐ろしさを改めて実感しました。もしも、私の家族が亡くなったら、私はその体をしっかりと吊ってあげたいと思うからです。その思いも叶わない状況にあるということにも胸を痛めました。

私も五年生のときマラリア学習の一つで戦争を疑似体験をしました。そのときもおびえながら暮らし、自分の家族がたくさん死ぬという体験から、戦争の恐ろしさを感じましたが今回、実際に人が亡くなったり、爆発したりする映像を目の当たりにし、以前体験したときよりも、心が痛くなりました。

また、私はロシア兵もとても苦しんでいると思います。兵士の中には、人を殺したくないからといって、自殺したりする人もいるそうです。だから、ロシア兵に薬を飲ませて、人を殺すことに対する抵抗をなくしているというニュースも耳にしました。私は、「戦争とはなんて残酷なんだ」と悲しくなりました。私にとっては、人を殺すしか

ない状況に置かれることは、自分が殺されるよりも辛いことだと思ったからです。ロシアは国家主義で自分が人を殺したくなくても、国に逆らったら殺されるそうです。自分が思うままに行動することができなかったり、自分の生き方を自分で決められなかったりすることも痛々しいと思います。また、それとは別に、「殺されるよりは…」という思いで自殺した人もいます。何よりも、ロシアもウクライナもたくさんの方が家族を失っているということがあってはならないことだと思います。私は五人家族です。お父さんは明るくて面白いです。自分が笑うことで周りを明るくしてくれます。お母さんが肉や野菜から出汁をとってくれるので、とてもおいしいです。お姉ちゃんも、やさしくてしっかり者です。多くの友達からも信頼されています。弟はいつも元気でわんぱくです。思いつきり、遊ぶ姿で周りを元気にしてくれます。私がこの世で一番大切なのは家族です。きっとウクライナの人もロシアの人もそうだと思うので、家族を失う人がたくさんいる戦争が一日でも早く終わってほしいと思います。そして、私が当たり前のようになっている、夜ぐっすり眠れること、テレビが見れること、家族と笑いあえることが、世界中の人にとても、あたり前の日常になってほしいと強く願っています。

私は、世界を平和にするためには、争いごとをなくすことが大切だと思います。だから、家族や友達がケンカをしているときは、止めるようにしています。気持ち落ち着かせて、冷静に話をするように心がけています。一人ひとりが、そんなふうになんか心がけることで、平和な世の中になると信じています。だから、私の思いを一人でも多くの人に伝え、平和な尊いものだということを、世界中の人々に訴えていきたいです。ウクライナの人々の「奪われた日常」を一日でも早く取り戻せるように、私も積極的に行動したいと思います。